

山行報告書

京都田辺山友会

報告者 永田 恵子

山名	「幻の大仏鉄道遺構めぐり」ハイク	山行名	交流部例会					
ルート	JR 加茂駅～大仏鉄道記念公園							
山行日	10月17日(土)	天候	晴れ					
参加者	リーダー：永田 恵子 サブリーダー：赤松 隆二 男性：中廣、山口、北村、竹原、藤富俊、岡部、守口、嘉手苺、樋口、坪田、中田上田昌、平松昇、倉光正、西川洋 女性：堀、姫島、大林、藤富慶、徳田、河野、平松多、上田秀、倉光展、長野、頼上杉 合計：29名							
赤橋をバックに！		コースタイム						
		地名	時：分	地名	時：分			
		JR 加茂駅	集	10:00	松谷川隧道	着	12:20	
			発	10:15		発		
		観音寺橋台	着	11:05	梅美台公園 (昼食)	着	12:30	
			発	11:10		発	13:10	
		鹿背山橋台	着	11:20	黒髪山 トンネル跡	着		
			発	11:30		発		
		梶ヶ谷隧道	着	11:35	旬の駅	着	13:40	
			発	11:40		発	14:00	
		赤橋	着	11:45	大仏鉄道記念公園	着	14:40	
			発	12:00		解散	14:50	
		山行報告 明治時代に加茂と奈良を結んでいた「大仏鉄道」は営業期間が9年と短い為、幻の大仏鉄道と呼ばれていて、その遺構を巡るウォーキングコース約12キロをゆっくり歩きました。 当初はボランティアガイド随行説明を計画していましたが、参加者1人につき200円かかる事等からの理由で急遽SLの赤松部員がガイド役を引き受けて下さいました。 コースも平坦な道だったので親睦を深めながらの楽しい山行となりました。 煉瓦造りの隧道ですが煉瓦の積み方によって、イギリス式、フランス式、ドイツ式等呼び名も変わり、また各隧道付近に説明書も用意されているので学習しながら歩いた感じです。 お天気、コース共に、今回の「秋のふれあいの集い」イベントにはマッチしていたのでは、と思います。 諸事情で初めてCLをやらせて頂きましたが、皆様のご協力があり成功できた事を感謝しています。参加された方ありがとうございました。						
		ヒヤリハット なし						

巳

1. 二年ぶりに山友会行事に参加

▼一昨年、秋山「八ヶ岳」に参加した。その前数年間、女房殿の中国行きに合わせて私も中国での居候生活を何回か繰り返し、山行数が減っていた。だから八ヶ岳の登りは結構シンドかった。元気いっばいの60代と比べて明らかに体力低下で、少しずつ坂道を下っていく感じであった。「年を取るとはこういうものかなー」と思っていた。ところがどっこい、人生そう甘いものではなかった。昨年3月、突然の頭痛と発熱に始まる「稀」病？にかかった。以来、病気の後遺症と薬の副作用とで体のあちこちにトラブルが続出した。坂道を下るところか、崖から転がり落ちた感じだった。といったことを延々と書き連ねると「ハイキング感想文」ではなく「闘病感想文」になってしまうのでこれくらいにしておくが、今年3月には足の手術をする羽目になり、目下せっせと歩いてリハビリ中である。

▼いつになったら山友会行事に復帰できるのかと思っていたら、「秋のふれあいの集い・幻の大仏鉄道遺構めぐりハイク」なる案内が「かなび」に出た。大仏鉄道には興味がある。おまけに汽車の走ったコースなら高低差もあまりあるまい。これならいけるかもしれない、と思ったのだった。しかし「約12km、21,000歩のハイク」という脅迫文もちゃんと書いてある。さらに、世に悪名高き？山友会の高速ペースに果たしてついていけるのかも心配だ。結局、締め切りぎりぎりまで体力、足力を見極めた上、「平地なので脱落しても遭難はしなくてすみそうだし、介護人〔女房殿〕付きなので…」という情けない注釈付きで申し込みをして、お許しをいただいたのだった。

▼当日は、晴れたりうす曇りの暑すぎない良い日和。前半は加茂駅から始まる田舎道。田んぼの多くは稲の刈り取りが終わっている。まず現役関西線に並行して残っている鉄道線路跡を訪ねる。ゴルフ場あたりから関西線を離れ、奈良へ向かう。新住宅街の一角、梅美台公園で待望？のお昼弁当。後半は町中の幹線道路を歩き、終点大仏公園を目指す。途中、所属は1班で行列の先頭を歩かなければならないはずが、ペースダウンで中盤以降に落ちることもあったが、何とか無事終点まで到着。歩数計を見ると21000歩と公約？通りだ。というわけで、めでたく長距離ハイキングを完歩できたのだった。これも大仏さんのご加護かと感謝した次第です。メデタシメデタシ…。

▼これで終わってしまうと、肝心の「大仏鉄道」を無視することになり、準備してくださった交流部の皆さんにも失礼だし、大仏さんもお怒りになるかも。「鉄道」のことは嫌いじゃないから、書き始めると長くなりそう…。それで、前半では自制したが、まったく触れないで終わるわけにもいかない。以下、できるだけ短くするつもりですが、興味のない方は飛ばしてください（これでも、いろいろ気を使っているのです）。

2. 大仏鉄道の研究???

▼前夜、ルートの予習をした。これは山行の常識である。という格好良すぎるが、今まで鉄道路線が気になりながら一度も地図を眺めたことがなかったからである。いったい加茂から奈良市内へどこを越えて鉄道が入ってきていたのか。奈良は古墳やら遺跡がありすぎて、通り道も限られてくるはず。探してみたら、木津川市主催のハイキングの案内パンフ（2010年）が出てきた。それに出ている略図を見てアレレとびっくり。木津から奈良へ至る古くからの道「奈良坂」に梅谷口で交わる道ではないか。南へ下がれば平城ニュータウンから伸びてくる「ならやま大通り」と交わり、さらに昔懐かしきドリームランド前を通る。北へ行けば、最近開けた住宅地「梅美台」に通じる道である。この事実が気が付いてみれば「やっぱりそうか、ここしかないナー」という感じであった。

▼この道にはいろいろ思い出がある。一つは、浄瑠璃寺、岩船寺などに行くとき一番便利な道であること。友人の案内などで何度も走った。もう一つは「梅美台」である。もう40年近くも昔のことになる。このあたりは低い里山であった。当時、「列島改造論」に煽られたのか、あちこちで団地の大規模開発が進んでいた。この一帯も住宅供給公社が開発を始めるという話であった。ここからがいささか世知辛い話になる。不動産屋が里山の売り込みを始めたのだ。例えば100坪の山を買う。いずれ公団がそれを買い取る。ただし金は払ってくれない。全体を宅地造成し、道路などの共有部分として土地の一部を召し上げる。残った部分（例えば50坪）の宅地が買主のものになる。換地というらしい。山を買った2倍ほどの値段で宅地が手に入る勘定だから宅地になってから買うより安かろう、というわけだ。もろもろの事情で、いずれ大地に直接つながる一戸建ての住宅が必要になろうという思

いもあり、その話に乗ってしまったのだった。ところが、人生そううまくはいかない。その後の景気の変動もあって、公団の計画が遅れに遅れる。こちらはまた家庭の事情で、階段しかない低層ビル住宅ではまずいことになり、早々と一戸建てに住む必要が生じた。それで偶然みたいに田辺町に住むことになり、その縁で山友会にも参加することになったのだから、人生とは分からない。話が「住宅取得感想文」になってきたようだ。

▼探してみたら当時使った古い地図が出てきた(物持ちがいいというか、整理するのが下手というか)。その地図をしげしげ見ると、先に書いた道を含めて、加茂駅から奈良市内まで緩やかにカーブする道がきれいにつながっている。このコースに間違いはない。鉄道線路の両側は木々の茂る里山と田畑。地図でもそうなっている。その切通しを汽車が走っていく。ウン、ありうる風景だなと納得した。最近の地図を見ると、道路の両側に梅美台と州見台という住宅地が表示されるが、道自体は梅美台で直角に曲がるよう改造されている。汽車は直角には曲がれない。古い地図にある、この道から枝分かれして並走する細い道(鉄道が走る前からあったと思われる)も、今の地図では住宅地の一部になっていて影も形もない。今の道が昔のままという保証はない。この世は移り変わるのだ。古い地図も役に立つ。

▼古い地図に赤ボールペンで筋を引き、丸印をつけているのを見つけた。見ているうちに思い出してきた。先に書いた山の土地の分譲は、言ってみれば、将来の宅地の権利を買うようなもので、場所はどこだっていいのだ。でも、不動産の売買としては、ちゃんと現場を確認することが必要なのだろう。あなたの買う土地はここだよと、現場へ案内されたことを思い出した。軽四輪ならともかく乗用車は入れないような狭い谷の道をかかなり歩いて入り、さして高くはない尾根を見上げ、この斜面の土地だよと教えられたのだった。そこに一本のササユリが咲いていた。いずれここもブルに引っ掻き回されて、ササユリも滅びるのだろうと申し訳なく思った記憶がある。ところが新しい地図と見比べてみると、赤丸マークしている現場は、いまの「光科学研究所」のもう少し奥の県境の斜面だったらしい。どういふ申し合わせの結果か知らないが、現状では県境を挟んだ狭い幅だけ里山が残されているようなのだ。元・私の所有地はあのとこのままかもしれない。ササユリの子孫も健在かも。一度行ってみたくなった。

▼これだけ予習したので、当日は「歩き」に専念することができた…と言いたいが、赤松学芸員さんの説明にはいろいろ教えられた。レンガの積み方にオランダ式とイギリス式があることも知った。でも、一番の驚きは「松谷川隧道」だった。あれだけ走り回った梅美台の道路の下に、鉄道時代の遺物であるあんな隧道があるなんて、いままでまったく知らなかったのだから…。

▼中廣部長を始めお世話をいただいた交流部の皆さん、いろいろ声をかけてくださった同行者の皆さんには本当に感謝しています。身体にも頭脳にも適度な刺激を受けて、これからも「山登り」を続ける微かな光明が見えてきたような気がしています。もう少し頑張ってみます。ありがとうございました。

